

東久邇宮記念賞の由来について

「昭和天皇の女婿である東久邇宮盛厚（ひがしくにのみや もりひろ）殿下の発明哲学である『発明には上下の貴賤はない。小発明ほど尊い、ノーベル賞を百取るより、国民一人一人の小発明が大切だ。』という理念から生まれた。昭和38年に東久邇宮記念会を発足し、平成14年10月よりNPO 法人発明知的財産研究会の事業となり、現在に至っている。」



「4月18日、大阪で開催された東久邇宮記念賞の授賞式に出席してまいりました。“小さな発明にも光を”という理念で創設された賞で、平成31年の日付と菊の御紋章の入った賞状をいただけてきました。平成最後のいい記念となりました。」

東久邇宮盛厚殿下（1917年5月6日～1969年2月1日）は、第2次世界大戦直後に総理大臣を務めた元皇族の東久邇宮稔彦（ひがしくにのみやなるひこ）王の長子として生まれた。陸軍士官学校を卒業してから陸軍将校として勤務し、昭和18年、26歳の時に昭和天皇の長女である照宮成子内親王と結婚した。下記の写真は、昭和天皇のご一家と共に映っている貴重な写真。

東久邇宮盛厚殿下

平成天皇

昭和天皇

